若手先輩社員がアドバイス

は、1年生の時に生コンクリートを多く手配しすぎてしまい、ミキサー車1台分を無駄にしてしまったことです。

鳥越　工程打ち合わせを勘違いして、他の業者さんが入ったあとコンクリートを打設するところ、先にコンクリートを打ってしまい、後で斫（はつ）り作業が発生し、お金も人手もかかる上、工程を台無しにしたことがあり、きつく怒られました。メモを取っていれば防ぐことができたミスで、それ以降は十分気をつけるようにしています。

齋藤　自分の仕事が周りにどう影響するかは経験してみないとわからない部分がたくさんあります。仕事に慣れるまでに必要なことはどういうことでしょうか。

榊　1年目は早く道具の名前や仕事の流れ、段取りを覚えるよう頑張りました。

仲程　1年目はわからないことが多く、上司からもそれが当たり前と言われました。最初は現場の雰囲気に慣れることが重要で、職人さんと積極的にコミュニケーションをとったり、わからないことは先輩や上司に聞いたりしていました。

中村　私もわからなかったら聞くようにしていました。

鳥越　まずは先輩から言われたことは最優先してやり、少し余裕が出てきたら身近な先輩を観察して、その仕事の仕方等を覚えるようにしていました。

齋藤　現場の人間関係で心掛けていることは。

榊　自分は人見知りなのですが、いい雰囲気で楽しく仕事ができるよう、休憩時間に話したり、積極的に自分からコミュニケーションをとるようにしています。

仲程　自分も休憩時間には積極的に話しかけています。仕事の話はあまりせず、美味しいラーメン屋など、もっぱら他愛もない話が中心です。

齋藤　職場の人に助けられたことは。

鳥越　コンクリートを間違って打って、パニックになっていた時のことですが、先輩社員に電話したら、遠い現場から直ぐに駆け付けてくれてうまく調整してもらい、感謝しています。迷惑をかけた業者さんに電話しろといったアドバイスもいただき、頼りになります。

齋藤　新入社員の方々に激励のメッセージを。

榊　慣れるまでは大変だと思いますが、慣れるまで頑張っていれば、何とかなります。慣れると、余裕も出てきますから、まずは慣れることが重要です。

仲程　わからなくても当たり前なので、積極的に周りの人に聞くこと。自分と気の合う人、質問しやすい人を見つけると聞きやすいですね。悔いのないよう頑張って下さい。

中村　新入社員の皆さんに言うことではないかも知れませんが、仕事だけが人生ではない。働いていく中ではいろいろと辛いこともあると思います。あまり思いつめたりせずに、自分には友達など周りの人がいることを忘れずに、頑張っていただきたいと思います。

鳥越　不安になることはあると思いますが、それは先輩社員も通ってきた道。自分で抱え込まずに何かあれば先輩や同期の人に聞いてみて下さい。それに、自分に何ができるかを考えるよりも、何をすべきかを考えていった方が前に進みやすいと思います。失敗した時はなぜ失敗したかを考えることは必要ですが、今は失敗を恐れず、何でも挑戦して欲しい。

齋藤　社会人になると、学生時代とは違い、失敗して怒られることが多くなる一方で、褒められることは少ない。自分で自分を褒めてあげることも大事ですね。

これまで先輩たちの話を聞いて、質問等があれば。

新入社員　コミュニケーションをとり、仲良くなって、職場や現場に変化はありましたか。

鳥越　仲良くなって食事や飲みに行ったり、趣味のスノボに行ったり、そうした気心の知れている人と仕事しているとモチベーションもあがり、職場等も楽しくなってきます。

新入社員　元請だったり、下請だったり、その立場によって仕事の仕方やコミュニケーションのとり方等が変わりますか。

中村　元請と下請の両方を経験していますが、意識して変えたことはありません。ただ、立場が違うと仕事の仕方も変わります。下請の場合は、自社とは書類等も異なりますから、元請のシステムや指示を正確に、かつ早くやることを心掛けていました。

新入社員　これをやっておけばと後悔していることは。

榊　初めて建て込み（型枠組立）をする時、先輩のスピードに驚きました。その後もわからないことが多く、なかなか慣れなかったのですが、今思うとああすればもっと早く慣れ、覚えられたと思うことはあります。ただ、そんなに早く習得できる簡単な仕事ではありませんから、時間がかかるのは致し方なく、後悔というほどのものではないです。

仲程　いっぱいあるのですが、もっと職人さんに遠慮せず、話しかけるなど、もう少しコミュニケーションをとれれば良かったなあとは思います。仲良くなると現場も楽しくなります。仕事は楽しい方がいい。

新入社員の感想

▽1年目の時のミスやその対応など、これから経験するであろうことを聞くことができ良かった▽失敗した時はなぜ失敗したかを考えるという言葉が印象に残った。同じ失敗を繰り返さないための策が大切だと思った▽挨拶と笑顔がとても重要。叱られても挑戦しつづけることが大事。一つの目標を立てて、モチベーションを維持する重要性がわかった▽ものづくり、形・地図にのこる、達成感のある仕事。ホウレンソウの大切さ、コミュニケーションの大切さが印象にのこった▽先輩たちのすごさを感じ、自分も早く現場に出てみたい▽4人の話はかなり参考になった▽貴重な経験談です。ありがとうございました。

キャリアコンサルタント（齋藤）からのアドバイス

キャリア理論で、「自分ならできる！」と感じるために大切な要素は3つあります。1つ目は自ら経験し、達成感を得ること。2つ目は、先輩の励ましやサポートを受けること。3つ目は今日のように先輩たちの話を聞くこと。これらは、障害に直面した時の粘り強さにもつながるといわれています。

今日の先輩たちの話を聞いて、自分の将来の姿を想像できた方もいるのではないでしょうか。あの時こんなことを聞いた、これがこういうことだったんだと実感、体験しながら、やりがいを感じていっていただきたいと思います。

福井正人・広島建設アカデミー理事長

これだけ多くの若い子らが建設の世界に入ってきた。嬉しい限り。

うちのアカデミーの入校式でも言うことを紹介する。学生の時は消費者。今は生産性ゼロでお客さんだが、これから皆さんは生産者になる。それで給料をもらう。ただ、皆さんの世代はわけのわからない自信、根拠のない自信を持っている。ついこの間まで学生だったのだから何もできるはずがない。失うものはなく、どんどん失敗していい。失敗すると怒られるが、褒められると伸びるなどと、甘ったれたことを言ってはダメ。怒られて、身に染みて、それが自分の血と汗となる。このことを後に続く後輩たちに伝えていって欲しい。

資格はそれで食うのだから取って当たり前。取っただけではまだ半人前で、人に取らせて一人前になる。人は人に教えてこそ成長する。後輩に恥ずかしくない先輩となり、指導を。1日も早く仕事をおぼえ、制服の胸に付く社章、マークに誇りをもち、仕事して下さい。

蟹澤宏剛・芝浦工業大学教授

大学では現場に近いことを教えているが、そのきっかけは世界でもトップ水準にある建設技術の秘密を研究していくうち、スーパーゼネコンなどその技術力もさることながら、下請で実際につくっている職人さんたちの能力の高さがそれを生んでいることが分かった。

そういう職人さんの親方や職長さんたちを紹介してもらうと、人間もすごいし、知識もすごい。一番感じたのは、仕事は見て覚えろとか、盗めとよく言われるが、すごい人は教え方も上手く、仕事に真摯に向き合っている者には惜しみなくノウハウを教えてあげる。

現場では、元請、下請、孫請といろいろあり、指揮関係等はあっても、ものをつくるということでは対等。対等の立場で尊敬できる現場の先輩を見つけて沢山吸収して、そこで得た知識等はもったいないなどとは思わず、後輩たちにも伝えていって欲しい。仕事の範囲が異なれば、ものの見方も違う。そうした人との付き合いを続けていくと、仕事も面白い。

平成29年度　新入社員研修　カリキュラム

1日目　4月12日（水曜日）

時間	科目	内容	講師等
10:00～10:10	主催者あいさつ		東京都中小建設業協会 会長　山口　巌
10:10～12:00	社会人としての心構え	挨拶・身だしなみ 仕事の基本　報・連・相	㈱研修屋 佐久間　寿美江
	昼休み		
13:00～14:50	ビジネスマナー①	マナーとは　言葉づかい 態度：基本姿勢と動作 名刺交換	㈱研修屋 佐久間　寿美江
15:00～16:00	ビジネスマナー②	電話応対の基本	

2日目　4月13日（木曜日）

時間	科目	内容	講師等
10:00～11:00	施工管理1	品質管理	森友建設㈱　常務取締役
11:00～12:00	施工管理2	工程管理	千田　馨
	昼休み		
13:00～14:50	施工管理3	安全管理	㈱朝倉組　安全・環境部 部長　柴崎　博之
15:00～16:00	施工管理4	原価・建設会社の経理	㈱建設経営サービス 森田　哲也

3日目　4月14日（金曜日）

時間	科目	内容	講師等
10:00～11:00	公共工事の流れ	入札から建設業法まで	㈱建設経営サービス 村井　順
11:00～12:30		DVD「アナザーストーリーズ」～代々木体育館～	戸倉建設㈱　会長 石塚　武
	昼休み		
13:30～14:00	現場の一日の流れ		佐久間建設㈱　専務取締役 佐久間　藤樹
14:00～16:00	若手先輩からのアドバイスと意見交換会		㈱松下産業　ヒューマンリソース　センター長 齋藤　朋子
～16:10	アンケート記入		

「アナザーストーリーズ」匠へ　知恵と汗

石塚武会長

当日は、先の東京オリンピックの代々木体育館建設計画・工事に携わった人々の苦労の姿を描いたNHKの番組「アナザーストーリーズ」運命の分岐点▽東京五輪1964～競技場が間に合わない！？～”のDVD視聴が披露されるとともに、登場人物の一人、戸倉建設の石塚武会長を招き、渡邊裕之都中建副会長（広報委員長）がインタビューした。

渡邊　工事に携わることになり、感じたことは。

石塚　昭和34年に山形から上京してちょうどオリンピック決定の日に今の会社に入社した。弊社がそのオリンピック施設（代々木体育館）を施工することになったのをまず一番うれしく感じた。

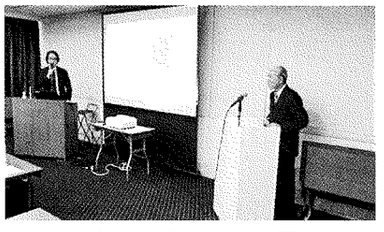
渡邊　仕事の内容は。また、どのようなことがつらかったか。

石塚　出しを…面の型…だから…コサイ…の「三…いて、…仕事…より楽…倒的に…つら…毎日の…中の競…泊り込…理など…たし、…も無…んなど…く、他…い時を…ものな…く、寒…思い出…

渡邊　…と。

石塚　…から20…を出す…のモッ…り、実…みたこ…でも実…き、設…先生に…ながら…出に残…

渡邊　…業は、…事で、…高品質…き渡す…者の中…もおら…てその…恵と汗…りに専…は匠と…れぞれ…どうぞ…いただ…



インタビューの様子